

平成23年度しまね地球温暖化防止活動大賞受賞者一覧

【事業者部門】

賞	大 賞
事業者名	アースサポート株式会社
代表者	代表取締役 尾崎 俊也
所在地	松江市八幡町882-2
活動の概要	<p>廃棄物処理業を営む中で、環境保全に対する様々な取組を行っている。</p> <p>可燃物として焼却処分されていた食品残さのリサイクルを平成19年10月にスタートし、その量は平成23年6月末までに4,108トンとなり、焼却処分により発生するCO2排出量を約71%削減し、その削減量は現在までに約216,495 tになる。</p> <p>この食品残さのリサイクルにより、平成22年4月及び平成23年4月に他社とともに食品リサイクル法に基づく「再生利用事業計画（リサイクル・ループ）」の認定を受けている。</p> <p>また、廃棄物収集運搬車両から排出されるCO2を植林事業と排出権の購入（半分は山陰地方での排出権購入）によりオフセットする取組も行っている。</p> <p>さらに、本社事務所の照明機器を全てLEDに取り替え、電気自動車を購入し、工場建屋壁面に太陽光パネルを設置している。</p>

平成23年度しまね地球温暖化防止活動大賞受賞者一覧

【事業者部門】

賞	優 秀 賞	優 秀 賞	優 秀 賞
事業者名	玉造グランドホテル長生閣	有限会社土江重機	株式会社仁多産業
代表者	代表取締役 長谷川 延正	代表取締役 土江 光二	代表取締役 川西 一夫
所在地	松江市玉湯町玉造331	出雲市国富町838-2	仁多郡奥出雲町亀嵩1372
活動の概要	<p>小型温水ボイラー8台の燃料に重油を使用せずに車のエンジンオイルの再生油を使用し、年間約1,000 tのCO2を削減している。ボイラーのバーナーに再生油専用のバーナーを使用するなど改良を重ね平成21年から新型のバーナーに更新し、燃費が3%アップした。また、月に一度清掃、点検、整備を実施し、安定稼働に努めている。</p> <p>また、いち早くエネルギーの見える化に取り組み、実際の施設、業務で消費するエネルギー量を算出、その情報を各部署、担当で共有する仕組みを構築した。業務を行う中で、目につく箇所に掲示するのに加え、表示方法についても、消費エネルギー量、CO2量、コストなどを表示するよう工夫を凝らしている。</p> <p>さらに、宴会場等のシャンデリアのクリプトン球をLEDに更新するなど設備更新による省エネルギー化を実現している。</p>	<p>CO2排出寄与率の高いパワーショベルの燃料削減によるCO2削減を、建機から始めるストップ温暖化と銘打って啓発活動を行っている。自社の環境配慮型経営の精度を高めるために、自社の行動規範となるエコアクション21の取り組みを今春から行っており、来年早々の認証取得を予定している。</p> <p>また、環境への負担をできるだけ軽減する環境配慮型製品の開発を行い、パワーショベルの燃料を約20%削減するエンジン出力制限カバー(eco-8)を開発した。</p> <p>さらに、事業の受注の中で、重機使用によるCO2排出量の見積り提案を実施し、改善提案を行っている。また、県内の森林CO2吸収量にも焦点を当て、実際の工事でのCO2排出量とのカーボンオフセットを行うべく関係機関と調整を行っており年内にも第一号案件が動き出す予定である。</p>	<p>「エネルギー管理委員会」を立ち上げて、省エネルギー活動を全員で推進している。</p> <p>熱エネルギーの有効活用と電気エネルギーの有効活用に取り組んだ結果、対前年度から次のような削減実績を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 熱エネルギー（重油） 削減量 約53.6Kl/年（約13%） 2 電気エネルギー 削減量 約63.8kwh/年（約8%） 3 CO2排出量 削減量 約170 t/年（約11%） <p>また、「省エネルギー活動アクションプラン」を作成し、省エネ活動は個別ではなく全員参加での必要性を理解し取り組み、毎月の「経営会議」で進捗報告を実施している。平成22年度上半期は、エネルギーがどこで使われているか把握し、無駄を見つけて改善（蒸気の有効利用等）し、下半期は、省エネ診断に基づき、放熱ロス対策、省エネボイラーへ3基更新、電気のデマンド管理を行った。</p>